FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
URL http://www.fujieda-rotary.org/ E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：石垣 善康　副会長：青島 彰　幹事：酒向 謙次　副幹事：大塚 博巳

【コスモス】
写真提供 ： 櫻井 龍太君

第1880回

＜ソング＞ 我等の生業
＜ソングリーダー＞竹田 勲君

【2010-2011年度 RIテーマ】
地域を育み
大陸をつなぐ
BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS
レイ・クリンギンスミス

■ 会 長 報 告　石垣 善康君

11 月はロータリー財団月間です。
私がかかわりを持った、ロータリー財団活動についてご報告いたします。国際親善奨学生の選考にかかわりました。海外へ留学する人に一年間 26,000 ドルを支給するプログラムです。資格審査が厳しくまず、高校卒業後 2 年間以上大学に在籍か職業に従事している事が原則となってます。また、受け入れ国の言語に堪能である事を証明して初めて、受験資格が整い、それから非常にハードルの高い試験が待ってます。

10 年ほど前の受験者は、国立一期校卒業、外資系のコンサルタント会社勤務の好青年で、成績証明書も大変優秀でしたので、応援しましたが、残念ながら不合格となってしまいました。反面、青少年交換留学生は高校生という事もあるのでしょうか、語学はほとんどしゃべれないーその学力もあまり問題視しないーという事で、同じロータリーの青少年対象事業でも不公平さを大いに感じています。

又、ＧＳＥチームのホームステイを 2 回、体験いたしました。職業に従事する人、5 名を 1 チームとし、4 週間にわたり派遣交換、お互いのロータリーで、職場訪問、ホームステイをする事業です。
9 年前、スウェーデンから来ました。初めてのホームステイ受け入れ体験でしたが、スウェーデンという成熟した国民性もあるのでしょう、非常にマナー良く、楽しい体験でした。（日本語は駄目ー英語でのやりとり）帰国後、2～3 回、手紙やクリスマスカードを頂きましたが、その結婚されたとの連絡を頂きました。

2 年前には、台湾からのチームを受け入れました。2 回目、アジアからのお客様という事で、それほど緊張も、事前準備もしなかったわけですが、特に我が家に来てくれた人は、大変マナーも良く帰国後、手紙をくれたり、又半年後の母の日には、電話も頂き受け入れて良かったという思いです。

財団奨学生に戻りますが、静岡には、田辺君がいます。彼は、静高ー早稲田在学中、英国のサセックス大学に留学、政治学を専攻いたしました。帰国後は、松下政経塾に入塾、市会議員、県会議員を歴任、来春の静岡市長選に立候補しています。藤枝ロータリークラブにも 10 年ほど前、卓話に来ました。そのときの話で印象に残っている事をお話いたします。

英国は 2 大政党の政治体制です。お互いに政権奪取が大きな目標ですので、選挙戦ー与党としての政策に特徴があります。野党＝減税します。政府＝財政の縮小。今、名古屋の河村市長が減税を訴え、当選し実行には大変苦労しています。英国では、数々の補助金などの削減方針で混乱しています。当時の話が、今もイキイキと参考になっています。今後も、ロータリー財団奨学生の活躍に期待いたします。

■ 幹 事 報 告　酒向 謙次君

- 中山ガバナーより、11/13.14 開催の地区大会のお礼状が届いております。
- 国際ロータリー年次大会 参加旅行のご案内が届いております。

- ㈱フジテレビジョン　事業部より、カナダのパフォーマンス集団のスーパーサーカス「クーザ」のご案内が届いております。
- 伊豆修善寺の「宙　SORA　渡月荘」より、「米山記念館を訪れる修善寺温泉」の宿泊ご案内が届いております。

■ 出 席 報 告　　竹田　勲君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
30／43　69.77%	30／42　71.42%

(１)欠席者（事前連絡とメークアップをどうぞ）
○河井君　○櫻井君　○杉山君　○鈴木邦君
○仲田廣君　○萩田君　板倉君　江﨑晴君
酒井君　鈴木舜君　大長君　仲田晃君　水野君

■ ビ ジ タ ー
大澤 勲夫君（島田）

■ ス マ イ ル Ｂ０Ｘ
- １１月２６日妻の誕生日です。　村松 英昭君
- 結婚祝ありがとうございました。銀婚式までもうひとがんばり。がんばります。池ノ谷 敏正君

スマイル累計額　４７３,０００円

■ ロータリー財団委員会卓話
委員長　　柳原　寿男君

１１月はロータリー財団月間です。ロータリー財団の活動は教育的プログラム、人道的プログラム、そしてポリオプラス・プログラムの３種類に分けられます。
教育的プログラムの主なものは、国際親善奨学金と研究グループ交換（GSE）です。人道的プログラムは、地区補助金やマッチング・グランド等があります。

本日の卓話者、桂川未土里さんをご紹介します。県立袋井高校、埼玉大学教育学部を卒業され、掛川グリーンロータリークラブの推薦で、２００８～２００９年度国際親善奨学生としてモロッコのモハメド五世大学教育学部へ１年間留学されました。その後１年間、フランスの中学校で日本語教師としてボランティアをされ、本年８月末に帰国。現在は小学校教員の採用試験に向けて勉強されているそうです。

○財団奨学生卓話

桂川 未土里様

2008-2009 年度ロータリー財団国際親善奨学生としてモロッコのモハメド五世大学へ留学させて頂きました、桂川未土里と申します。本日は、このような発表の機会を与えて下さいまして本当にありがとうございます。お聞き苦しい部分も多々あるかとは存じますが、最後までお聞き頂ければと思います。

まず最初に、よく聞かれます、モロッコを選んだ経緯ですが、実は私は当初フランスを留学希望国として提出しておりました。私の留学致しました 2008 年度は山静地区で選抜された奨学生５人のうちフランス語圏希望者が４人という年でした。そこで、一つの国に一人というロータリー財団のきまりに則り、私はモロッコに指定された、というわけです。

「モロッコ」の「モハメド五世大学」に留学するように、と指定されてからは、まずどういった国でどこにあるのか、という基本的な情報の収集を始めました。

ここで、折角の機会ですので、皆様にも私の一年間住んでいたモロッコという国について少しだけご説明したいと思います。

スライドショー

まず、この「宗教」について少しお話したいと思います。

こちらにもあります通り、「イスラム教」はモロッコの国教です。国旗に使われております、赤と緑もイスラム教において重要とされている配色が使われています。

さて、イスラム教といえば、戒律が厳しい、というイメージを持たれる方が多いのではないでしょうか。女性は黒い服で顔以外全て隠さなければならない、一日五回お祈りをする、お酒やタバコ

は禁止、年に一度の断食の月がある、等々様々な決まりがありますが、モロッコは他のイスラム教国と比べて非常に宗教信仰には寛容な国として知られています。全て個人の裁量に委ねられているのです。

顔と手以外の全身を覆う服を着ている母親とスカートに半そでのＴシャツを着ている娘が歩いていることも珍しくはありません。夜になればお酒を嗜む人もいれば、生涯一滴も口にしたことがない人もいます。一日五回のお祈りもする人、しない人、お祈りの日である金曜日だけする人、など様々です。そして、お互いの信仰について干渉しあわない、というのがモロッコ人の宗教観です。宗教とは神と自分自身との契約であり、信心と信仰は別である、という考え方が人々に浸透しているのです。ちなみに、よく質問される一夫多妻制ですが、モロッコでは各妻に必ず同じ待遇をする、という条件の下で法律で四人までは認められています。経済的な負担も大きいことから、実際はかなり減ってきています。こういったところからも、モロッコが中東のイスラム教国とは少し違ったゆるやかな宗教観を持っている国だということがおわかり頂けるかと思います。

ところで、お恥ずかしい話ではありますが、私はモロッコに行くまで、「イスラム教」に対してあまり良い印象を持っていませんでした。上記のような戒律の厳しさや、マスメディアの報道により、むしろ少し怖いイメージすら抱いていました。しかし、実際にモロッコに着いてみてイスラム教徒の人々と接する中で、「イスラム教」のそんな印象は少しずつ変わっていきました。

例えば、アラビア語のあいさつのこんにちは、は「アッサラームアライクム」といい、これはイスラム教の経典であるコーランにも示されている言葉で「あなたに平和が訪れますように」という意味のある言葉です。また、このコーランには「神のもとに人々は皆家族である」という言葉も記されており、その教えの通り、人々は初めて会った人であろうと本当の家族かのように暖かく接してくれます。街中で道を尋ねると、どんどん知らない人に声をかけて数人がかりで場所を探してくれることや、目的地まで一緒に着いてきてくれるといった話も、モロッコではよくある話です。また、同じ家族なのですから出会ったばかりの人でも、その場でご飯やお茶をご馳走したり、ということがよくあります。これも、同じ神の下に産まれた家族同士、富は分け合うもの、というイスラム教の考え方に基づいているそうです。

イスラム教がテロリストや暴力的なイメージと結びついていた私は、こういった人々の自然な優しさに触れるにつれて、今まで自分が本当に失礼な偏見を持っていたことに気づき、そして恥ずかしく思いました。彼らはイスラム教があまり良く思われていないことを嘆いています。ほんの一部の過激派の人達の存在が、大多数の穏やかに暮らしている人々の印象を大きく変えてしまっているのです。私は幸運にもイスラム教を信仰する人々と触れ合う機会があり、そしてイスラム教は決して暴力的な宗教ではないことを実際に知ることが出来ました。もし皆様の中にも今までの私のようなイメージを持っていらっしゃる方がおられましたら、私自身はイスラム教徒ではありませんが、この場でこういった経験を話すことで、イスラム教の印象が少しでも良いものになれば幸いです

今まで「宗教」についてお話して参りましたが、次に人々の「暮らし」についてお話したいと思います。とはいえ、イスラム教国ということで、他の生活や暮らしの話をするにあたっても常にこの「イスラム教」というものはついてまわります。そこで次にお話したいのは、「努力」するということについてです。

モロッコに着いて人々の生活を見てまずはじめに思ったことは、本当にゆるやかに暮らしている、ということです。一日中カフェでお話をしているおじさん達、お昼過ぎにはお昼寝をするお母さん達、雨の日は大学に来ない生徒達、のみならず教授達、バスには時刻表も停留所もありません。何もかもが日本で私が暮らしていた状況とは違うのです。日本の生活から一変、そんな社会で暮らし始めた私は、あまりの生活のリズムの違いに人々に対して不安や怒りを感じることもありました。

そんなある時、私はモロッコ人の友人にふと、生きがいとは何か聞いてみました。彼女は「アッラーだよ。」と答えました。「アッラー」とはイスラム教における「絶対神」のことです。人はみなアッラーによって創造されているのだから、生きている理由や喜びも全てアッラーによって定められている、ということでした。その意見を聞いて、私はふっと視界が晴れたような気がしました。人々に対して抱いていたもやもやの理由がわかったからです。それは、「自己を肯定するもの」の違いだったのです。

私はそれまで、何かに打ち込んでいることが自分を肯定する一番の手段だと考えていました。「何事も一生懸命」やることが正しく、怠けてばかりいることはみっともないことだと思っていたのです。仕事や勉強や趣味に勤しんでいることが「生きがい」であり、特に打ち込むもののない生活は味気ない、そういった概念は私だけでなく、かなりの日本人が共有している感覚ではないかと思います。

一方、モロッコではイスラム教によって、自己を肯定するものは「アッラー」であると規定されています。何かに打ち込んでいようと、家で寝ていようと、自分の存在は偉大なるアッラーによって肯定されており、後ろめたさを感じることはありません。自分の生きている理由や一生懸命取り組むことのできる対象を探して迷う必要はないのです。自分に出来る範囲のことをのんびりやればいい、それもアッラーの意志なのです。

もちろん、「努力する」ということは素晴らしいと思います。何か打ち込めることがあることも然りです。しかし、その一方で私は「努力しない」ことを否定的に捉え、下に見ていたのです。それは、私が偶然日本で育った中で「努力」が自己を肯定する手段であると信じて生きてきたことによる産物でしかありませんでした。自分のリズムとは全く違うテンポで生活している彼らを「怠け者」として嘲笑うことは出来ないということ、そしてよくモロッコ人に聞かれた「どうして日本人はそんなに働くのか」という質問の意味がその彼女の一言によりスッと心に落ちてきました。どちらも、信じているものの違いでしかなく、人生の選択肢の一つでしかない、ということに気づいたのです。

この「努力すること」についての価値観の崩壊は、私にとって最も衝撃であり、良い経験になりました。当たり前だと思っていた感覚が崩されることは恐ろしいことですが、それこそが、外国で生活することの醍醐味であり、私はこの経験からやっと異文化を受け入れられるようになっていったと思います。

最後に、「豊かさ」についてお話させて頂きます。

皆様ご存知の通り、モロッコは決して経済的に裕福な国ではありません。建物自体も質素なものが多く、家の中にあるものも少なく古いものがほとんどです。街を走る車も日本ではもう見られないような古い車ばかりです。しかし、それで彼らの生活はちゃんと成り立っています。質素ながらも皆暮らしているのです。スラム街を訪れたりして貧しい人々とそこでの生活を目の当たりにもしました。しかし、そういった人々にも私の想像していたような悲壮感はありませんでした。笑っている子どもも怒っている大人も、どこにでもいるような表情の人たちが住んでいました。そこで、私が勝手に彼らの生活水準と自分の日本での生活水準を比べて「貧しい可哀相な人達」と考えていたことに気づきました。そしてその考えがどれだけ驕った失礼なものだったのかと反省しました。物質的には豊かではないかもしれませんが、彼らの表情を見ていると「可哀相」な人たちと一概に言えないのです。

以上、「イスラム教」「努力」「豊かさ」についてお話させて頂きましたが、私はモロッコの滞在でこの 3 点以外にも自分の偏った考え方に嫌というほど気づかされました。志望国だったフランスではきっと経験し得なかったであろう葛藤や経験もたくさんあり、今ではモロッコに留学させて頂いたことに感謝しています。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて頂きましたロータリー財団の皆様に心から感謝を申し上げます。また、これからの自分

の進路の中で様々な形で様々な人を通してお返ししていきたいと思います。藤枝ロータリークラブの皆様、本日はこのような発表の機会を与えて下さいまして、本当にありがとうございました

（担当／大塚博君）